

北関東・磐越地域分科会（第2回） 議事要旨

日 時：平成21年6月30日（火）13：45～14：15
場 所：ハイアットリージェンシー東京 B1F「白鳳」

◇議事要旨

- (1) 北関東・磐越地域の自立的発展に向けた広域連携の取組について
 - (2) 意見交換
- 上記につき、事務局より資料説明を行った。

会長挨拶

(茨城県)

- この分科会を構成する北関東・磐越地域は、日本の中で重要な役割を果たしていける地域と考えている。
- 大変な景気、雇用の悪化の中で、これから日本が如何に豊かな生活を確保していけるかが大きな課題である。
- 本県東海村のJ-PARCという世界最先端の大強度陽子加速器施設のほか、つくば、あるいは東京、埼玉等における最先端の科学技術を活用して世界有数の研究拠点とし、世界の中での競争に勝ち残る地域としていくことが重要である。
- 観光面や防災面などこれまで以上に地域が連携をとり合って、さまざまな施策を進めていくことが重要と考える。
- 地域全体が発展していくにはどうすれば良いか。そして日本が沈没しないようにするためにはどうすれば良いか。そのために首都圏の北部と東北圏の南部とのいろいろな連携をどう深めれば良いかなど、皆様方から御意見をいただければ大変ありがたい。

討議内容（順不同）：

(栃木県)

- 北関東自動車道が平成23年中に全線開通となります。すでに茨城県ともつながり、利用客が予想以上に増えているということで期待している。
- 北関東自動車道が全線開通すると、北関東・磐越5県で循環の高速道路体系ができますので、それに期待をしている。特に、これからは東アジア、極東ロシアにも目を向けていかなければいけない。
- 首都圏広域地方計画に書いてある施策自体は、方向として理念的なものが多く、具体的にどうするかという面では、これから我々が考えていかなければいけない。厳しい財政状況の中ではありますが、本計画が活かされるように努力していきたい。
- 福島県とは日光・会津の観光交流を行っており、また新潟県とは職員の交流を行なっていた。このように北関東・磐越の5県は非常におもしろい圏域であり、これからもよろしくお願ひしたい。

(群馬県)

- 北関東自動車道が前倒しされ、23年9月に全線開通となるが、できればもっと早くということが群馬県の要望である。是非、北関東自動車道の全線開通を着実に進めて欲しい。
- この5県で環状線が開通することで、今までになかった動き、あるいは今後の発展の仕方など可能性があると思うので、インフラ整備について群馬県も期待している。

(新潟県)

- 日本海側のゲートウェイとして新潟の位置づけをしっかりとしていかなければならない。さらに、首都圏の日本海側の唯一の新潟県という中で考えていかなければならない。
- 中国の総領事館が、新潟に全国6番目ということででき、いろいろな形での交流がさらに加速すればと考えている。
- 韓国のソクチョから新潟を通過してトロイツァに行くV字型の定期航路ができ、新潟がキーになる。また、フェリーなので人的交流もこれから出てくると考えており非常に期待している。そうすると、交通の連携が必要であり磐越自動車道の4車線化等早く実現していただきたい。
- 福島県、山形県、新潟県で、NHK大河ドラマの「天地人」の関係で観光客が増えている。ETCの関係もあると思うが、こうした広域連携は1つの県ではできないことができるようになる。北関東も含めると、また別な面で広域というもの非常に期待できると考えている。
- 新潟空港は、東アジア日本海周辺と、ウラジオ、ハバロフスクに2便ずつで、これだけの航路を持っており活用していきたい。

(福島県)

- 福島県は、東北圏と首都圏の結節点にあり、連携は極めて重要であると位置づけている。
- 広域観光交流プロジェクトという中で、観光も点から線、線から面という意味で広域化をどのように図って誘客を促進するかが重要である。
- FIT構想については、横断的な取組みとして位置づけを行なっていただいた。二地域居住など広域的連携の中で都市部との交流や、定住も含め一生懸命やる必要があり、引き続きこれを期に連携を深めながら進めたいと思いますので、よろしくお願ひしたい。
- 福島空港は、海外にはソウル便と上海便があるが、最近のウォン安の関係で厳しい。国内は大阪便と沖縄便の撤退などがあり、これからどのように利用促進を図るかを考える中で各県の話も聞きながら頑張っていきたい。
- 上海からは観光客がメインで来ており、来年5月以降に行なわれる上海万博が1つの良い起爆剤になればと考えている。これからもいろいろな仕掛けをしながら、特に上海、ソウル便関係は一生懸命に利用促進を図っている。

(茨城県)

- 茨城空港の利用促進活動として、台湾の旅行代理店に富山から茨城まで来るルートで見ってもらったところ、かなり興味を持たれた。新潟、福島などかなり広域のルートで考えても、お客さんが結構ついてくれると感じている。
- 茨城空港は、アジアナ航空がソウル（仁川）へ毎日1便の就航が決まり、釜山へも週3便運航される予定となっているほか、ローコストキャリアを探しているところである。ローコストキャリアはマスコミも注目しており、茨城空港に就航が決まれば日本に根づき、利用者も増えるのではと期待している。
- 九州やアジアからの観光客に茨城だけを見て満足してもらうのは難しいので、空港同士もこれから広域連携を考えていかなければならない。
- 北関東には、茨城港常陸那珂港区を中心とした広域連携物流特区があるが、CO2削減に向けてより近い港湾の利用を促進する必要があり、栃木県、群馬県にも積極的に経済界への働きかけを行っていただきたい。

以上